

# 新型コロナウイルスの対応について

新型コロナウイルス感染症については、国内及び世界各地で感染が拡大している状況です。令和2年3月19日の新型コロナウイルス感染症対策専門家会議では、現在日本では、新型コロナウイルス感染症を一定の制御下に置くことができているが、今後、突然爆発的に患者が急増（オーバーシュート）するかもしれないこと、社会・経済機能への影響を最小限としながら、「①クラスター（患者集団）の早期発見・早期対応」、「②患者の早期診断・重症者への集中治療の充実と医療提供体制の確保」、「③市民の行動変容」という3本柱の基本戦略が提言されました。本学も一人でも感染者がでないように学生、教職員の皆様にもご協力をお願いします。

新型コロナウイルス感染症とは・・・これまでに報告されていない新型コロナウイルスに関連する呼吸器感染症。感染経路は飛沫感染と接触感染。発熱やのどの痛み、咳が長引くこと（1週間前後）が多く、強いだるさ（倦怠感）を訴える方が多いことが特徴です。

◆飛沫感染：感染者の飛沫（くしゃみ、咳、つばなど）と一緒にウイルスが放出され、他の方がそのウイルスを口や鼻などから吸い込んで感染します。飛沫が飛び散る範囲は1～2m。

◆接触感染：感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周りの物に触れるとウイルスがつきます。他の方がそれを触るとウイルスが手に付着し、その手で口や鼻を触ると粘膜から感染します。

## 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の特徴

1. 新しい感染症であること。COVID-19の病原ウイルスに対する特異的免疫を有している人はいないために流行が拡がりやすい。もちろん、治療薬はありません
2. 症状の軽い人からの感染拡大が起こっていること。若年層は、症状が軽くその人たちが活動することで、結果中高年層の感染につながっていること。この感染症に罹患しても約80%の人は軽症だが、5%程の方は重篤化し、亡くなる方もいること、高齢者や基礎疾患を持つ方は特に重症化しやすいことなどです。

## 感染防止のために～日常生活編～

新型コロナウイルスの治療薬はありませんので、一般的な感染予防対策にしたがって感染しないようにすることが大切です。

1. 石鹸での手洗いや消毒剤を使った手指消毒を励行し、咳エチケットをおこなってください。学内では、できるだけ手指消毒液を設置していますので、そちらを利用してください。
2. 無症状の場合マスク着用は必須ではないが、発声や楽器などにより、唾液の飛散が考えられます。飛沫感染や接触感染の可能性があるときは、できるだけマスク着用は励行したほうが良いでしょう。

3. 家族や近親者の方に感染がある場合、3月に海外渡航した人も登校する前にできるだけ毎日体温測定を行うようにしてください。
4. 感染が拡大している地域などからの海外帰国者の感染が広がっています。米国や欧州各国とエジプト、イランなどは入国制限となっています。検疫態勢の強化帰国後2週間の自宅やホテルでの待機要請や移動に公共交通機関を使わないことが求められています。不要不急の移動は、できるだけ控えるようにしてください。  
\* 外務省/ <https://www.anzen.mofa.go.jp/>
5. 不要不急の外出は控え、人混みは避けるようにしてください。
6. バランスのとれた食事、適度な運動、休養、睡眠などで抵抗力を高めるようにしましょう。

## 感染防止のために～学校生活編～

---

国内では、散発的に小規模に複数の患者が発生している例がみられます。今重要なのは、小規模な患者の集団（クラスター）が次の集団を生み出すことの感染防止です。令和2年3月19日の新型コロナウイルス感染症対策専門家会議の『新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言』の中で、最も感染拡大のリスクを高める環境（①換気の悪い密閉空間、②人が密集している、③近距離での会話や発声が行われる、という3つの条件が同時に重なった場）での行動を十分抑制していただくことが重要と示されました。とくに教育現場は、小集団になることも多く、音楽大学では、なおのことだと考えます。それらをふまえ以下のことに注意してください。

1. 換気の徹底。風通しの悪い空間をなるべくつくらないこと。空気が一か所にたまらないように授業では窓やドアをあけたり、空調を作動させてください。（換気の目安 5～10分/1～2H）
2. 密集しないこと。人が密に集まって過ごすような空間に集団で集まることを避けてください。本学では、あらゆる機会に集団になることがありますので、メールなどで代用したり、その機会を減らすようにしてください。必要なときには、短時間でおこない、マスクの励行をおこなってください。
3. できるだけ距離を保つ（目安は手を伸ばして触れない程度）。授業では、隣の人との距離をもつようにしてください。近距離での会話などには気を付けるようにしてください。対面での会話や食事にも注意してください。
4. 発熱や風邪症状がみられるときは、必ず自宅で休養するようにしてください。これは、厳守させていただきます。もし、授業で感染が確認された場合は、そのクラス全員が濃厚接触者となる可能性があります。そのような場合には、保健管理室でも休養することができません。
5. 次の症状がある方は（1）（2）を目安に「帰国者・接触者相談センター」にご相談ください。  
（1）風邪の症状や37.5℃以上の発熱が4日以上続いている。  
（解熱剤を飲み続けなければならないときを含みます）  
（2）強いだるさ（倦怠感）や息苦しさ（呼吸困難）がある。

※ 高齢者や基礎疾患等のある方は、上の状態が2日程度続く場合

※大規模イベントで①換気の悪い密閉空間②多数が集まる密集場所③間近で会話や発声をする密接場面が重なる大規模イベントに参加されていた皆様は、2週間以内は特に上記の点に注意してください。

\* 帰国者・接触者相談センター

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/covid19-kikokusyasessyokusya.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/covid19-kikokusyasessyokusya.html)

6. 本人は、もちろんですが近親者や身近な人が感染した場合、また海外渡航した人（Live campus より通達あり）は、学生支援課に報告してください。
7. タオルやペン類などものを共用しないこと。また、まわし飲みや他人が使用したコップ等は使用しないでください。

<参考>

\* 学生支援課：Tel042-535-9509、保健管理室：Tel042-535-9585

\* 厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言（3月19日）

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000610566.pdf>

\* 新型コロナウイルス感染症にかかる相談窓口について

<https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/iryo/kansen/coronasodan.html>

\* 集団感染を防ぐために <https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000601720.pdf>

\* 厚生労働省〈感染症情報/新型コロナウイルス感染症について〉

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html)

国立音楽大学

学生支援課

保健管理室